

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300207		
法人名	株式会社 ハンループ		
事業所名	グループホーム あとれ		
所在地	北海道網走市呼人519番地17		
自己評価作成日	令和4年7月10日	評価結果市町村受理日	令和4年10月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195300207-00&Se
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和4年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナウイルス流行に伴い、外部との接触機会が減りましたが、1人1人落ちついた環境でゆっくりコミュニケーションを取るように心がけています。会社の理念が新しくなり「豊かな心で、住まう方々の安心できる日常の幸せを構築します。」を職員間で共有し努めていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

網走市呼人地区の小高い住宅地に位置している「グループホームあとれ」は2階建て2ユニットで運営されています。事業所を運営している法人会社は、網走市内にもう1件のグループホームと北見地域に3件のグループホームを運営し、現在流行している感染症等でも協力体制が取られており、今後交流の幅を広げ、職員交換学習等職員育成も計画されています。又、以前施設長で現在顧問職の職員がそれぞれの事業所を頻繁に訪問する事で管理職員の相談事を受けたり、現状把握をし、それぞれの事業所運営のサポートを担い、職員の安心感へと繋がっています。本年初めに会社の理念として「豊かな心で、住まう方々の安心できる日常の幸せを構築します。」が新しく作成され日々の介護の指針として共有する中、管理者、職員で話し合い、更に具体的に受け止められる様にとグループホームあとれ独自の理念を検討して行きたいと考えています。職員間で大切にしている事の一つとして常に心掛けているのは、利用者の気持ちを大切にしたい介護の提供を共通認識とする事であり、利用者が毎日笑顔で過ごして行ける様に取り組んでいます。具体的な取り組みとして食事に関してや看取りに対するアンケートを実施し、利用者、家族の意向の把握に努めています。現在、感染症の流行が少し終息の兆しが見えてきており、事業所前にあるプレハブや玄関での面会も始まっており、家族や地域住民の協力を得ながら利用者が豊かな生活が運れる様に支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するため見やすいところに掲示し、実践に向けて努力している。	本年初めに会社の理念が新しく作成され、リビングの目に付く所に掲示し、介護提供の指針として浸透を図っています。今後会社の理念を基にした事業所独自の理念作成を検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年同様コロナ感染対策の為、交流は難しい。	近年の感染症流行で交流は少なくなってきましたが、以前は近くの障がい者施設が運営するパン屋に出掛けたりと近隣住民との交流を図っています。災害時における地域住民との協力関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス感染拡大のため地域貢献の機会を作れていない。今後、落ちついた時期に実施したい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染拡大のため開催が出来ず、2ヶ月に1回資料提出は欠かさず行っている。	感染症の流行で書面開催となっています。内容を記した書面は町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、行政に送付しています。家族の希望で家族には玄関にファイルを設置して情報の共有を図っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば市町村と連絡し、協力体制は出来ている。	何かあった時には頻繁に連絡を貰ったり、事業所からも定期的に連絡を行う等、緊密に相互連携に努め運営に反映しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を立ち上げ、ミーティング時に確認や委員にての集まりも開催し、運営推進委員会時に報告している。(現在は書類にて)身体拘束はしないケアにとり組んでいる。	管理者、主任、計画作成をメンバーとして身体拘束廃止委員会を開催しています。身体拘束の研修は運営推進会議でも報告し理解を得る様に努めています。管理者は職員の状況を把握しスピーチロックへの気付きを促しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会を立ち上げ、ミーティング時に確認や委員にての集まりも開催し、運営推進委員会時に報告している。(現在は書類にて)身体拘束はしないケアにとり組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人が付いている入居者さんが1名います。市民後見制度を学ぶために管理者2名は講習会を受け、市民後見人になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に必ず重要事項説明を行いその場で不安、疑問等に対して説明し納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的に入居者本人の不満、不安、苦情等尋ねるようにし、会話の中でも組み取るよう努めている。面会時には管理者、職員が挨拶に必ず行くようにしている。	毎月、主任や担当職員により手紙を送付したり、毎月管理者が家族に電話したりと利用者の近況報告に努めています。ブログも作成し様子を伝えており、何でも言って頂ける関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を行う時や個別に意見があるときや、管理者から投げかけたり、日常業務時にも聞く機会を設けている。	管理者は毎月の職員会議時や日常業務時に職員の希望や提案の把握に努めています。以前総合施設長だった顧問も頻繁に事業所を訪れ管理者、職員の意向の把握に努め運営に活用しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員個々の努力などの把握をし、各職員の為、職場環境等の整備に努めている。実績、有資格者などは昇格を今後行っていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を行っている。コロナ中研修はZOOMが多いが参加出来る様にしている。ミーティング時には必ず職員1人1人がケアに対する意見交換をするようにしている。(個別に担当も作っている)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流は難しいが、電話等での情報交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネジャー等から情報提供を頂き、家族等含め面会を行い不安が無いが確認に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を含め家族とも問題を出来る限り、家族の立場に立ち受け止める努力に努めたが、コロナの中面会制限もあり十分な希望に添えなかった様に思われる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の要望、不安を傾聴し、施設内外のサービスを検討し、調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話を大事にしながら、一緒に出来る事を探し、取り組み、利用者から知恵も聞き教わりながら協力し合える良い関係性を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ感染対策の為、直接家族との面会が難しく、本人の現状報告を手紙・電話等で行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外食・見慣れた場所への支援が難しいが、家族友人が来棟時には面会を行っている。	家族の協力を得て以前からの信仰を継続したり、友人からの電話を楽しんだり、管理者、職員は利用者のこれ迄の関わりや習慣を大切にしたい支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を楽しんでももらえたりすることで、笑顔ある楽しい関係作りが出来るよう、職員も間に入り、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後や他事業所に移られてからも、出来る限り関わりが途切れないよう電話などで状況報告確認に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	信頼関係を築き何でも話せる環境作りや各担当がミーティング時に状態やケア報告をし、実践できるよう努める。	管理者、職員は日常的に利用者との会話の時間を取る様に努めたり、食事のアンケートや看取りのアンケートを実施し、意向や希望の把握に努めています。食物の希望の実現の為会社の協力を得て冷蔵庫を増やして対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、既往歴等、本人の生活スタイルを把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の出来事を介護記録や申し送り、引き継ぎを行う事で情報共有をし、現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議、ミーティング、御家族面会時などに、意見交換や情報を共有し、現状必要な事を介護計画に反映している。	利用者、家族の暮らし方の希望や、医療関係者のアドバイスを取り入れ、現状に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。介護記録はSOAPを導入しており利用者の会話や状況を色分けして記録する様になっています。	SOAを基に作成された介護計画(P)を職員一人ひとりが理解と把握に努め、日々の介護提供や介護記録に反映できる更なる工夫を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば介護記録に記入または申し送りで状態の変化があれば記入、身体面、認知面の変化があれば即座に対応し、介護記録の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族から要望があれば既存にとらわれないサービスを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係で地域資源を活かされておらずボランティアさん等の来訪はない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、家族対応で受診して頂き、対応が難しい御家族に関しては桂ヶ丘クリニック訪問診療で対応し、状態変化があれば報告。かかりつけ医とは密に連携を図り関係作りに努めている。	かかりつけ医への受診は家族が対応していますが、受診が困難な方は事業所が行っています。訪問診療を利用される方、定期的に歯科の訪問や月1回の訪問看護師による健康管理が行われ家族の安心に繋がっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護は健康管理を行い、個人契約でも訪問看護を入れる事が出来るのでその時は看護職員と密に連携を図り、日々の変化を伝達し助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、退院時には地域医療連携室と連携を取り、面談、情報共有を行い施設に戻ってくるなどとの受け入れ体制などを整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化があった際はスタッフ間で確認・記録を取り家族に報告。現在は終末期ケアは行っていない。	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針があり入居時に利用者、家族に説明しています。終末期に関する意向確認のアンケートを実施し家族の想いを把握しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿った対応、ミーティングでの話し合いを都度行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、防災訓練を実施している。夜間、日中想定を交互に行う様にしている。	自主避難訓練を実施しています。避難時には地域消防団の協力を得ることで利用者の見守りや災害時の介護施設の避難場所として消防署の利用が出来るようになっていきます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーを守りながら声掛けには十分気を付けているが、馴れが出てしまうことがあり、注意していく必要がある。	「ダメ」「そこにいて」などのスピーチロックに対して職員一人ひとりの捉え方、考えの違いがありますが、介護する上での統一が図れるよう取り組んでいます。利用者の個人情報には口外しないよう指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の自己決定を尊重し何気ない会話の中でも本人の表情をに気を配り出来るだけ自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	受診や入浴など職員が減ってしまう時間もあるが、時間の許す限り外出や、散歩などの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	調髪タイミングの声掛けや、季節に沿った衣類の衣替えを行い、身だしなみを心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節毎の行事食の提供は行っているがコロナにより外出しての食事などは難しく行えていない。食器拭きを手伝って下さる方はいる。	献立は職員が作成して1Fは職員が、2Fは調理専門職員が調理をしています。利用者にアンケートを取り食べたい物を提供しています。行事食や誕生日には寿司、ピザ、ハンバーガーなど楽しい食事となっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分確認表を活用し、その都度声がけなどをして状態状況を判断している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に、口腔ケアを行っている。また毎日義歯洗浄剤使用、週1回ブラシ、コップ等、消毒液にて保清に努めている。訪問歯科も利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立した排泄を目指し、入居者個別に排泄誘導行い対応している。	排泄記録をもとに利用者一人ひとり排泄パターンを把握して、トイレでの自立排泄が出来るよう取り組んでいます。夜間、ポータブルトイレを使用している方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹便秘状態の長い場合は医療機関に下剤調整などの相談を行っている。腹部マッサージなど自然排泄を促し適度な運動も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理に勧めることなく馴染みの職員が都度対応、入居者に自然に入浴して頂ける対応をしている。入浴時間は希望に合わせて午前午後入浴が出来るようにしている。	基本は3日に1回ですが、利用者の希望や体調を考慮して、利用者との信頼を築くことで無理強いすることなくスムーズに入浴できるよう行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には就寝時間を設けているが本人の希望や安心して入眠できるよう室内環境整備をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は必ず職員同士声を出し合い誤薬防止に努めている。また薬確認表を使用し、職員同士確認をし、誤薬防止に努めている。新しい薬の処方方は申し送りに記入し全員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中から本人の意欲や役割に繋がる事を積極的に行えるようにスタッフ間で話し合い、取り組みを実施し笑顔ある生活に努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望を優先し出来る限り外出の機会を設けている。コロナウイルス流行のため、家族面会、遠方の外出は控えている。	日常的に天気の良い日には散歩や事業所前で花火を楽しんでいます。道の駅でアイスを食べたり事業所の買い物に同行したり自宅の庭を見に行ったりと気分転換になるよう取り組んでいます。月2回、家族と日曜礼拝に教会に出掛ける方もいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人では持っている方はいないが、代わりに職員が買い物に行き、立て替えて請求させて頂いている。本人が使いたいときは都度、家族に確認の電話をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にホームでの入居者の様子を来棟時にスタッフがお話させて頂き、何か必要な物がある場合などは、手紙や電話をかけさせて頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その月に合った装飾物を入居者さんとともに作成掲示している。塗り絵を好んでいる方はその季節に有ったものを用意し、後、掲示している。	居間には四季折々の飾りつけや行事の飾りを職員と一緒に作成しデコレーションしています。利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう環境作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	離れた座席でも、談笑するときは近くに席を入れ替え話ができるよう都度、配慮している。リビングの横にはソファがあり臥床できるスペースもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人の自宅で実際に使用していたものを持参して頂いており使い慣れた物、見慣れたものを利用し生活されている。	居室には使い慣れた物を持ち込んでいます。ラジカセやスマホを持ち家族と連絡とったりと今までの生活習慣が送れるよう支援しています。車イスの方には動線に配慮した配置を心掛けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ内、脱衣所、浴室等安全で自立を目的とした手すりを設け状況に応じて見守りを行い、出来る限り自分の力で行って頂くよう対応している。トイレ、居室等、混乱しやすいところには目印を作り、職員の声かけと併せて対応している。居室の前に名前をつけさせて頂いている。		